

日時 2015年3月18日(水) 18時30分～20時25分

場所 ビヤホール ライオン 狸小路店 地下1階 VIPルーム「狸の穴」

講師 北海道警察 本部長 室城 信之 様

本日は、北海道警察本部長でいらっしゃる室城信之様を講師にお迎えし、「北海道の安全安心を考える」と題してご講演をいただきました。

まず、安全安心を脅かすリスクとして、①交通事故、②暴力団、③特殊詐欺(オレオレ詐欺等)について、身近な例やわかりやすい数字なども使い、現状と対策をユーモアも交えながらお話いただきました。また警察活動の現状について、今の時代には、より慎重で突っ込んだ捜査が求められることから仕事は厳しいですが、市民の安全安心を守るために日夜頑張っているとのことでした。

当日は、お話のポイントや具体例を記載された何枚もの模造紙を紙芝居のように示され、大変わかりやすい講演でした。室城本部長の軽妙なお話しぶりや、参加者に分かってもらおうとのお気持ちが溢れた内容で、「警察」との言葉に感じていた堅いという先入観はすっかり消え去りました。

ご講演いただきました室城本部長とご参加された会員の皆様に、厚くお礼申し上げます。

1. 各種リスクの存在～「リスクを正しく認識していますか？」～

(1) 交通事故のリスク

厚生労働省の死因に関する統計によると、男性では160人に1人が交通事故で亡くなっており、交通事故は身近なリスクといえます。道内でも昨年1年間に、169名の方が交通事故で亡くなられ、このうち飲酒運転での事故による死者が19名で、北海道が全国ワースト1と不名誉な状況にあり、撲滅が必要です。交通事故を直前に予知することは不可能であり、リスク軽減に有効なシートベルト装着の徹底をお願いしています。

(2) 反社会的勢力のリスク

暴力団構成員等は全国、道内ともに減少傾向にありますが、依然として地域社会の大きな脅威です。暴力団の中で最大勢力が、今年創立100年を迎える山口組です。暴力団の命綱は「お金」であり、その獲得には恐ろしく嗅覚が利きます。最近では、詐欺、復旧復興事業、そして北海道では密漁など、多方面に触手をのばしています。

法律(暴対法や暴排条例など)面からの対応を進めるとともに、自治体・暴追センター・弁護士と協力し、市民の安全安心確保に努めています。

(3) 詐欺被害のリスク

道内での昨年の特殊詐欺被害は12億5千万円と前年比4割も急増しました。さらに今年に入ると3月の前半だけで1億円の被害が発生しており、緊急事態となっています。被害者へのアンケートでは、「事前に手口を知っていても騙されたであろう」と感じている方が6割もいます。また、今年2月中旬までに詐欺勧誘電話を受けたとして警察が把握した102名のうち、自らの判断で詐欺だと気付いた方は26名に止まっています。犯人は被害者を異常な精神状態に追い込み、騙す手口もますます巧妙になっています。

現在、金融機関等とも連携して預金小切手での支払いとするなど、水際対策も含めて臨戦態勢で対処しています。

2. 警察活動の現状

(1) 事件、事故の未然防止

昔であれば、DV（夫婦喧嘩）、ストーカー、家出などは事件としてなかなか採り上げられませんでした。現在では、積極的な対応を行い、最悪の事態を避けるべく最善を尽くしています。

(2) 警察捜査の現状

以前に比べると警察捜査における負担は確実に重くなっています。物的証拠の必要性が高まっているほか、外国人による犯罪や、インターネットを悪用した犯罪など、それぞれの捜査に手間のかかる事件への対応がその要因といえます。一方で捜査技術の進歩もあります。DNA型鑑定技術の向上、防犯カメラの普及、プロファイリングの活用などは力強い武器となっています。

(3) 警察活動の舞台裏

舞台裏として3点お話がありました。

- ①犯罪被害者等基本法が10年ほど前に定められ、被害者を支える施策が強化されています。
- ②被疑者の人権保障のため、留置場もプライバシーが守られる構造となっています。
- ③警察官採用の面から見ると、景気向上時には民間との競合が激しくなります。

（文責 渡辺知博）